



## 診察室から 頭部打撲（スポーツ、後編）

院長 福田 雄高

### 繰り返す頭部打撲（セカンドインパクト症候群、慢性外傷性脳症）

先月に引き続きスポーツによる頭部打撲に関連する回になります。注意し、スポーツ頭部打撲は避けるに越したことはありませんが、真剣であればあるほど、どれだけ注意していても頭部打撲は避けることができない場合もあるでしょう。

繰り返す頭部打撲には、より慎重な対応が重要になります。症状が改善していない間に練習や競技に復帰した場合、パフォーマンスが低下しており再び外傷を受けやすいこと、比較的短い期間に頭部打撲を繰り返すと時に重症になる可能性があること、そして長い目でみると、繰り返し受傷することにより慢性外傷性脳症に至る可能性があることがその理由になります。

#### ◆ セカンドインパクト症候群

診断名としては正式に確立されておらず議論はあるものも、セカンドインパクト症候群という概念があります。脳震盪やそれに準ずる頭部打撲の後、まだ回復していない数日から数週間という短期間のうちに、2回目の頭部外傷を受けると、たとえ軽い衝撃でも、致命的な（生命に関わる）脳腫脹（脳のむくみ）を起こすことがあります。特に18歳未満の、1回目の受傷から十分な観察期間をおかずに復帰した場合に起こりやすいとされています。2回目の受傷時には急性硬膜下血腫という頭の中の出血を伴うとされています。

#### ◆ 慢性外傷性脳症

脳震盪やそれに準ずる頭部打撲を何度も慢性的に繰り返すと、ある程度年月が経った段階で、脳変性による、認知症に似た症状を持つ、進行性の脳疾患を来す可能性もあります。頭痛、いらいらなど気分の乱れ、突発的な異常行動、認知機能低下、運動障害、疲労感などを呈します。

有効な治療法はなく、繰り返す脳震盪、強い頭部打撲を避けて予防することがその対策になります。

スポーツにおいて強く頭を打った際は、特に若年者はしっかり休養することがなによりも重要と考えられています。



サッカー 今日勝てるかな？

“Camarón que se duerme, se lo lleva la corriente.” 「眠っている海老は潮に流される。」